



タックシステム株式会社  
 www.tacsystem.com

**CONTENTS**

- 1p- TACショールームの紹介、TACセミナーレポート、TACセミナー第4弾の案内
- 2p- Review 「SRS Circle Surround II 6.1」
- 3p- Royer レポート
- 4p- 『ProTools に因んだちょっと良い話』第4回
- 5p- MAC OSX Server を使った DAW の為のファイルサーバーを考える
- 6p- 最近の DAW 事情
- 7p- 『この D-Sub25 ピンはどのタイプなの?』
- 7p- ハードディスクの Raid によるミラーリング
- 8p- AVIOM Products Configurations
- 9p- 導入事例紹介
- 10p- 新製品紹介
- 11p- TECH'S File of Dr. 新田
- 12p- 社長のひとりごと、各種インフォメーション



**TAC ShowRoom O~PEN!**

この度、弊社4階にショールームを設置し、多目的サラウンド用途にも対応したデモスペースを開設しました。ProToolsは、ICON32 フェーダーシステムやProControlを設置し、MAC/G5+EXP シャーシと Windows/hp/XW8000(with AVoptionV10)両方のOSに対応させたシステムを常設しています。又、ITU-Rサラウンドとディフューズサラウンドのスピーカーシステムを共存させ、2台のプロジェクターと3階に防音ブースを設置し実践的なシミュレーションと音に関するテストや、各種セミナーにも対応出来る様各種機器を取り揃えました。今後定期的にTACセミナーを実施したいと思いますので御期待下さい。(収容人員約30名)

**TAC セミナーレポート**

■ TAC セミナー第3弾 「ICONの登場」

digidesign からついに発売された話題の統合コンソール「ICON」と最新の「Pro Tools 6.4 software」のデモンストレーションを、ゲストの講師をお招きし、オープンしたばかりのショールームにて実践セミナー形式で行いました。今回は3部構成として長時間に及ぶセミナーとなりましたが、いずれも業界トップのエンジニアのみならずが講師とあって、盛況となりました。次回のセミナーも皆様是非御参加下さい。



ProTools6.4を使った最新プラグイン事情：  
 講師：杉山 勇司氏



映画におけるサラウンドミックス：  
 講師：大野 映彦氏



サラウンドにおけるマルチチャンネルワーク：  
 講師：染谷 和孝氏



■ TAC セミナー第4弾 『リボンマイクの大改革』

USA で再び注目を集め始めたリボンマイク。今回のTACセミナーはリボン・サウンドを熟知したL.A.在住のミキサー/レコーディングエンジニア Kenji Nakai 氏を講師に招き、その歴史や背景、および構造についてテクニカルに分析、更にサウンドチェック行ないリボンマイクの可能性を検証していきます。また新鋭リボンマイクメーカーであるRoyer Labsのマーケティングマネージャー John Jennings 氏もコメンテーターとして招きます。きっと新たなサウンドに遭遇できます。

■ Kenji Nakai (ミキサー/レコーディング・エンジニア)

L.A.に拠点を置き、オーシャンウェイスタジオのエンジニアを皮切りに、さまざまなアーティストのプロジェクトに参加。レッド・ホット・チリペッパーズ、トム・ペティ、チートリック、ボズ・スキャッグス、セリーヌ・ディオン、トム・スコットをはじめ、Chara、福山雅治などの国内外の著名アーティストのプロジェクトのエンジニアを務める。アル・シュミットやジョージ・マッセンバークとも親交が深く、その卓越した技術と感性により、多くのアーティストやプロデューサーからも信頼される注目のエンジニアである。



【詳細】

日程：11月22日(月)  
 時間：10:00～12:30 マスターズ・クラスA  
 13:30～16:00 ビギナーズ・クラス  
 16:30～19:00 マスターズ・クラスB  
 (マスターズ・クラスAとBは同内容)  
 場所：タックシステム株式会社内 4Fショールーム  
 定員：各クラス 30人(先着順に定員になり次第締め切りとさせていただきます)  
 参加費：¥1,000

【申し込み方法】

氏名、電話番号、職業(スタジオ名)、クラス名を記入の上、E-mailまたはFaxでお申し込みください。

タックシステム株式会社  
 Tel.03-3442-1525 Fax.03-3442-1526  
 E-mail: info@tacsystem.com

# SRS

## Circle Surround II 6.1

SRS  
www.srslabs.com

弊社では、米国SRS Labs, Inc.の日本国内におけるハードウェア・ソフトウェアの販売を行う事となりました。SRSの開発した技術はどれも優れた再現性を保持していますが、中でもCircle SurroundはFM放送や地上アナログTV放送での5.1chサラウンドサウンドの送出やCDやVTR素材の5.1ch化またはゲーム素材の5.1ch化など、幅広い分野に対応可能なオーディオエンハンステクノロジーです。



今回は製品の紹介をするにあたって、Pro Tools HDシステムで使用可能なエンコーダー・デコーダー「SRS Circle Surround TDM Pro」をクローズアップしてみたいと思います。

実際に Circle Surround TDM Proを使用する場合はエンコーダーをマルチチャンネルのマスターフェーダーにインサートするだけで、エンコードされた音声を作成する事が可能です。

実際の音質は原音に忠実なCircle Surroundの基本技術に加えてTruBass技術による重低音のコントロール、またセンターチャンネルにFOCUS技術を追加して台詞を明瞭にするなど、リスナー環境に合わせた細かい修正を可能としています。またデコーダーも搭載しておりその場でエンコードされたデータの確認と細かい調整を行う事が可能です。

この Circle Surround TDM Pro でエンコードしたデータは、番組の送出はもちろん、Windows Media 9のプラグインとしてデコーダーが無償配布されていますので、インターネットのストリーミングによるサラウンドサウンドの配信にも対応可能です。

### 商品ラインナップ

■ TDM-02 SRS Circle Surround TDM Pro  
最大6.1chのセッションをエンコード/デコードするPro Toolsプラグイン  
価格：115,500円(税込)



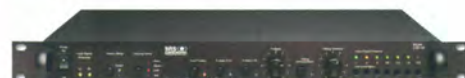
■ VST-02 SRS Circle Surround VST Pro  
Steinberg Nuendoで使用可能なエンコード/デコードVSTプラグイン  
価格：42,000円(税込)



■ SRS CSD-07D Circle Surround Digital Reference Decoder  
AES/EBU入出力を装備した業務用リファレンスデコーダー  
価格：588,000円(税込)



■ SRS CSD-07 Circle Surround Reference Decoder  
Lt/Rt、ステレオ/モノのアナログソースをデコード可能な業務用デコーダー  
価格：472,500円(税込)



■ SRS CSE-07D Circle Surround Pro Encoder  
AES/EBU入出力を装備した業務用エンコーダー  
価格：556,500円(税込)



■ SRS CSE-07 Circle Surround Pro Encoder  
最大6.1chまでの音声をアナログによるエンコードが可能な業務用エンコーダー  
価格：441,000円(税込)



※この様な優れた特徴を持ったSRSのエンハンステクノロジーを日本でのさらなる普及を目指し、番組送出やコンテンツ制作に不可欠なソフトウェア・ハードウェアの販売を行いたいと思います。デモのご依頼やシステムのご相談などは是非弊社までご連絡下さい。

## リボンマイクの可能性 PA編 (その2)

by Hirano (以下H)



今年も夏のJAZZ Bigイベントとして9月18～19日の2日間、東京ビッグサイトにおいて『東京JAZZ2004』が開催されました。東1ホールを埋め尽くすほどの大盛況の中、様々なアーティスト達の饗宴を間近に感じられた一時でした。この興奮したステージはNHK BS デジタル・ハイビジョンで5.1chサラウンドとしてライブ中継されました。



見所はなんといっても東京JAZZの音楽プロデューサーとして3年目の、ハービー・ハンコック率いるカルテットだったでしょう。メンバーはSax界の大御所ウェイン・ショーター、Bassのデイヴ・ホランド、そしてDrumsのブライアン・ブレンドとそうそうたるメンバーです。このカルテットのサウンド造りにRoyer Labsのリボンマイクが積極的に使われているのが非常に特徴的であった。ミキシングエンジニアとして来日した、Rob Griffin氏(以下R)にインタビューすることができましたのでレポートをします。

### Rob Griffin氏 INTERVIEW

H: 今回のマイキングについて

R: ひとまずマイクアレンジについてざっとお話しします。PfはSHOEPS MK21.MK8を組み合わせたMSと低域補助用としてSHURE KSM141を使用します。Saxはソプラノとテナーの持ち替えなのでSOUNDDELUX U99というチューブマイクを使用しますが、テナーのローエンド専用としてRoyer R-122を用意しています。BassにはAKGのクリップ型マイクとRetrospec The Juice BoxのTUBE DIをミックスしています。そしてDrumsはオーバーヘッドに2本、キックに1本のRoyer R-122を使用しています。更にスネア、ハイハット、ハンドパーカッション各々にSHURE KSM141を使用しています。これで以上です。シンプルでしょう。



マイクセッティング中のRob Griffin

H: PAにリボン・マイクはどうか?

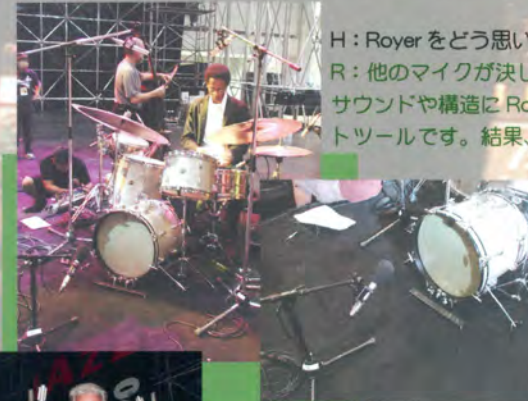
R: 一度使うと解ります。彼らにはベストマッチです。とにかく良いです。ナローなサウンドは自然ですし、イコライジングに自由に対応します。それと、リボン特有の指向性が使いやすい。0°正面および180°背面のみを確実にキャッチするポーラーパターンは90°と270°から飛び込んでくる不要な音が非常に少なくハウリングを防ぐのに有利です。また、同時にアンビエンスもキャッチできるので自然なサウンドになる。次は是非ハービーのPfでふた(反響板)を外し、2本のR-122を使用してみたい。

H: ワールドツアーにもRoyer R-122を使用しているのですか?

R: もちろんです。3～4年前から使用しています。ラフな扱いにも耐えていますよ。一度も壊れた事がありません。

H: 確かに、エアロスミスのジョー・ペリー用に7本のRoyer R-121を所有していますが5年間で一度も破損した事が無いとメーカーから聞いています。

R: 今までのスタンダードなリボンとは明らかに違います。キックにも使えるし、コンデンサーより丈夫かもね...



H: Royerをどう思いますか?

R: 他のマイクが決して悪い訳ではありませんが、新しく発売されたマイクでもサウンドや構造にRoyerほどのオリジナリティーがありません。現在は私のベストツールです。結果、R-122を4本とSF-12を1本所有しています。

オーバーヘッドに2本、キックに1本のRoyer R-122が用意された。キック用は約30cmほど離れた位置に45°の角度をつけていた。どうやらこれがRoyerも推奨しているマイクアレンジだ。135dBまで耐えるRoyerリボンマイクだからこその荒技だ。

Sax用に用意されたSOUNDDELUX U99とRoyer R-122。ウェイン・ショーターの指示で、床からの反射を避けるために一部分のみパンチカーベットが敷かれた。ヤマハ製のS.Saxとセルマー製のT.Sax。なんとT.Saxはジョン・コルトレンから譲り受けた貴重な楽器らしい。年代物だが非常にきれいに手入れがされている。



ハービー・ハンコック/ウェイン・ショーターカルテット、ゲストにはアフリカのギタリスト、リオネル・ルエガが参加



ツアー用マイクケース



陽気なRob Griffin

終始気さくな人柄のRob氏は、満員の観客のみならずバックステージのスタッフまでを楽しませてくれた。またの来日を楽しみにしたい。最後にRob氏がレコーディングした、ウェイン・ショーターのアルバム『フットプリント〜ベスト・ライブ!』をご紹介します。是非聴いてみてください。もちろんウェイン・ショーターのSaxにはRoyer R-121が使われています。また、PfにはSF-12が使用されています。



余談ですが...

2002年にスタートし今年で3年目のこのイベントは昨年まで調布の東京スタジアムで行なわれていました。今年は台風の当たり年だけに東京ビッグサイトという屋内特設ステージの選択はある意味正解だった。生ビール¥500、サンドイッチ¥300というのなかなか好感が持てる。しかし、飲み過ぎには要注意。いざ30分間のステージ転換休憩ともなると極端に少ないトイレに集中。長蛇の列は次のステージが始まってまだはげきれない。来年も是非行きたいと思うが気をつけよう。

### ★★★ お知らせ ★★★

Royerの登場によりUSAではリボンマイクが急速に注目を集めています。その理由を検証するためにLAからエンジニアを招きセミナーを企画しました。詳細はトップページに記載してあります。是非お越し下さい。

まず「Waves」とは？正式な生い立ちWEB等ご覧のこととして、私の認識ではデジデザイン社がTDM規格を採用した際、いち早くサードパーティーとしてプラグインの開発/販売を始めた、老舗中の老舗と言う事です。...

さて日本ではTDM版はデジジャパン様、Native版はメディアインテグレーション様お取り扱いの製品なので(ちなみにハードウェアのL2, MaxxBassは弊社扱い)、私がこの“トリセツ”を書くのはおこがましいのですが、社内や一部の方よりリクエストを頂いたため、このコーナーで取り上げる事に致しました。...

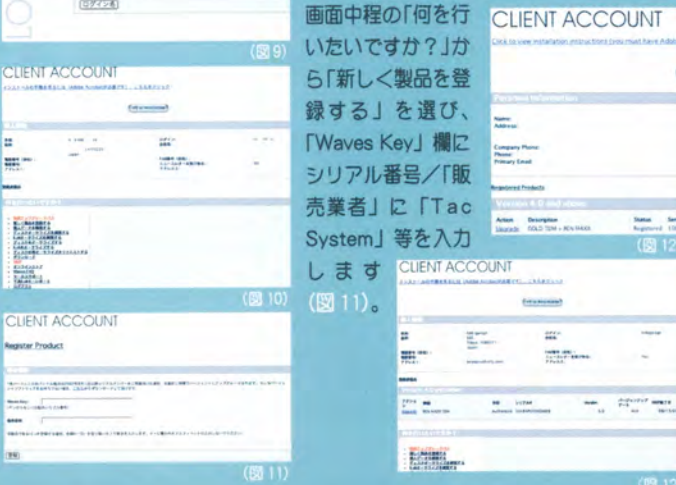
1. ユーザーアカウントの作成



※1日経っても最低メールが届かない場合、メールアドレスの入れ間違えや、MIDI上の間違った記号が原因があります。この場合は再度チャレンジして下さい。

2. 製品の登録

続いて購入したパッケージをほくそ笑みながら開封し、中に入っているシリアル番号が書かれた紙を探します。WAVESの「ユーザー」ページ(図2)から今度は「アカウントにアクセスする」を選び、先程のユーザー名、パスワードを入力します(図9)。



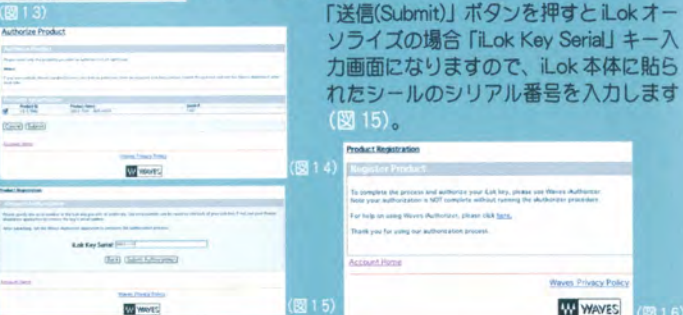
シリアル番号を間違えてしまうと自力でWaves社と交渉する、デジデザインカスタマーサポートにすぐる事になりますので“慎重”をお願いします。登録が成功すると「ユーザー」ページに製品名が登録されます(図12)。

【行程】

- 1. ユーザーアカウントの作成/認証
2. 製品の登録
3. オソライズ方式の決定/Lok オソライズの場合の追加事項
4. オソライズ作業
\* 作業には、e-mailの受信/WEBにアクセス出来る環境が必須。

3. オソライズ方式の決定/Lok オソライズの場合の追加事項

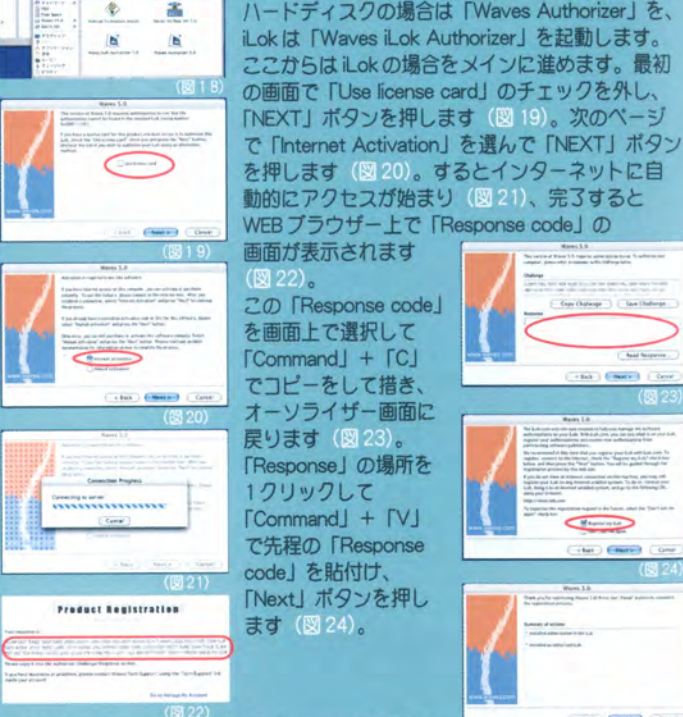
ようやく中盤まで辿り着きました。製品のオソライズにはOSのハードディスクに対して行う場合と、iLokを使用する場合は2つの方法があります。(弊社ではメンテナンス性/運用の自由度からWaves専用でのiLokオソライズをお薦めしています。)



「送信(SubmIt Authorization)」ボタンを押すと確認画面が出来ます(図16)。アカウントページに戻ると製品の「Status」が「iLok Auth Pending」となったのがご確認頂けると思います(図17)。

4. オソライズ作業

いよいよ正念場です。インストーラー CD-ROMで、ご購入の製品をインストールして下さい。OSXでは「アプリケーション」内に「Waves」フォルダが出来ますので、その中の「Authorizers」フォルダを開いて下さい(図18)。



この時点でiLok.comへの登録(iLok.comの登録はTac Information No. 28参照)をする場合は、「Register my iLok」のチェックは入れたままで、後で行う場合はチェックを外して「Next」ボタンを押します。お疲れまでした。...

以前より色々なワークサーバのスタイルを Apple XserveRAIDを利用してご紹介させて頂いてきました。意外にも(ちょっとは予測してありましたが)大反響だったと、昨年のInterBeeで実際にSANを利用したシステム展示した結果更なるご意見を頂戴して、やはりファイルサーバの重要性を再確認致しました。

今回想定するワークスタイルは、DAWクライアントPCが4台(この台数は50台でも100台でもご提案するシステムに支障は原則でません)。XserveG5とXserveRAIDをサーバ用に導入するとします。(図1)



このような場合では、『えっ？わざわざサーバを置かなくてもファイル共有でいいのでは？』という意見もあると思います。当然それでもワークグループを作りデータ共有もできるでしょう。けど...。...

ちょっと脱線しましたが、ここからは本題に入りましょう。なぜ、Serverを導入するのか?答えはディレクトリアクセス!これですよ!!これからのトレンドは!(と勝手に思ってます)

まずディレクトリアクセスとは何?という疑問に対してのお話です。ディレクトリアクセスとは、通常クライアントPCのHDDに対してインストールされているOS上のユーザーフォルダ内にホームフォルダができます。MAC OS Xのログインウィンドウでユーザーを入力/選択する行為は、まさにホームフォルダを選択しているのと同じ事と考えてください。

もう一度考えてみましょう。最新のProTools(TDM/LE)やNuendoはこのマルチアカウント環境に完全対応しております。ここが、今回この方法をお薦めする最大のメリットなのです。...

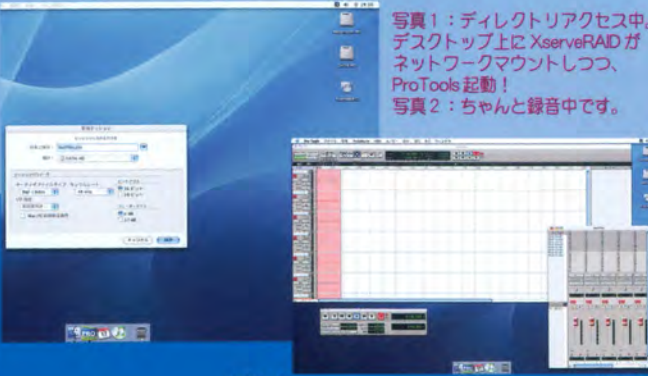
それこそが、DAWでのワークフローを考えた場合にディレクトリアクセスが最もメリットを感じられる部分だと思えます。どんなにエンジニアスタッフが増えようとも全てXserveG5上で一元管理でき、しかもある1人の設定の為に全て人のシステムまで不安定になることは無く、しかも仮にその人のホームフォルダが壊れてしまった場合でも、一度その人のホームフォルダを消してもう一度サーバにアクセスするだけで、新規のホームフォルダが作られます。

さて、今回のご提案は如何だったでしょうか?長くなってしまったので要点をまとめますね。
・ディレクトリアクセスをすることで、サーバ上で全てのユーザーを一元管理できる。...

では、ようやくProToolsとNuendoでの使用感をお教えしましょう。

■ ProTools の場合

TDM/LEが混在しても問題はないのですが、ネットワークボリュームには直接レコーディングできません。なので、レコーディングは一度クライアントPC上のインターナルドライブか、SCSI/Firewireドライブなどでレコーディングします。...



■ Nuendo の場合

最強ですよ!! ネットワークマウントしているXserveRAIDに直接レコーディングできます!!! しかもかなりのパフォーマンスが確認できております。実際に直接レコーディングをしている画面を見て下さい。(写真3)



どうですか? こんだけ長い文章になってしまいましたが、まだまだOS X Serverの魅力の一部にすぎません。

どうですか? こんだけ長い文章になってしまいましたが、まだまだOS X Serverの魅力の一部にすぎません。ファイルサーバとしての提案で今回は終わりにしますが、もっと幅広いサービスをうまく利用すれば更にDAW的な観点で見ても便利な機能が満載です。...



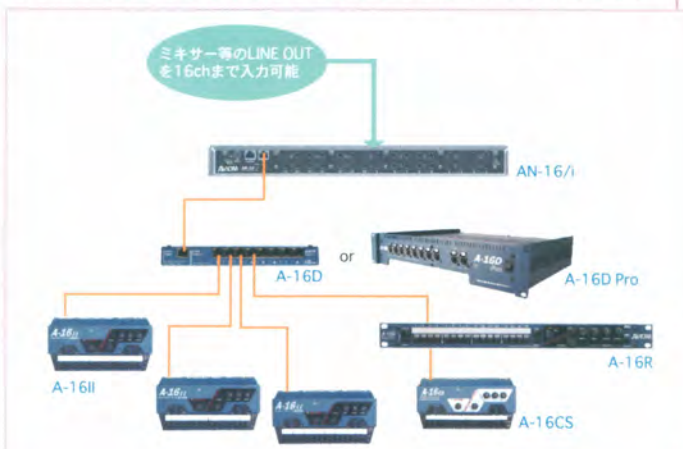
☆レコーディングからPAまでオールマイティだ！☆

AVIOMは万能モニタープロダクトである。ユーザーが必要とするようなモニター環境にもフレキシブルに対応する製品である・・・ということで、タックインフォメーションでは毎回取り上げている AVIOM ですが、今回は AVIOM 製品の Configurations にスポットをあて、いかに素晴らしく、役に立つ製品がお伝えしたいと思います。 by Kubota

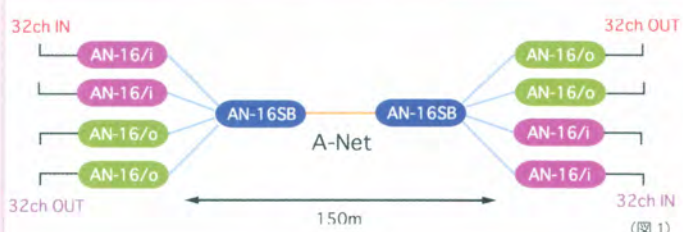


AVIOM モニターシステムは、キューシステムと音声伝送システムに分けることができます。とはいうもユーザーが用途別に分けられるということで、システムが全く違うという意味ではなく、キューシステムを使用しながら音声伝送も可能です。

右は、キューシステムの接続例です。AVIOM では『Personal Monitor Mixing System』と呼んでいます。ミキサーからの音声アウトを「AN-16/i インポートモジュール」に入力し、A/D変換します。この時に変換されるのが「A-Net」と呼ばれるAVIOM社独自のプロトコルです。24bit/48kHz、Latencyは0.88msecと驚きのスペックです。AN-16/iからはすべてCat-5ケーブルで接続していきます。16chの音声をCat-5ケーブルで引き回しができるので、システムの設置は簡単ですね！「AN-16/i」から「A-16D」もしくは「A-16D Pro」のディストリビューターに接続、そこから、A-Netと電源を「A-16II パーソナルミキサー」や「A-16R ラックマウントミキサー」に供給します。ミュージシャンが16chもの音声を任意に調整できるのです。



さて、AVIOMは、新製品をぞくぞく発表しています。キューシステム以外にも様々な展開が可能です。「AN-16/i」と「AN-16/o アウトプットモジュール」を利用すればマルチ音声伝送がCat-5ケーブル1本で可能です。「AN-16SBシステムブリッジ」に各4台接続することにより、64チャンネルまでの音声がCat-5ケーブル1本で伝送可能になります。(\*図1)



「AN-16/i」と「AN-16/o」を利用した音声伝送は16×0、32×0、48×0、64×0、16×16、32×16、48×16、32×32のシステム構築が可能です。PAで音声伝送を考えた場合、ステージにマイクアップ付きの「AN-16/i-M」を設置し、音声を取り出したい所に「A-16/o」を設置することにより、例えば、ハウス用、モニター用、録音用、中継用などと簡単に音声を分配できます。

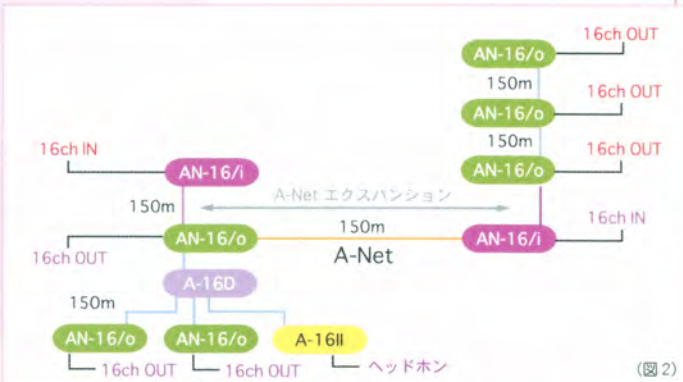


図2は、「AN-16/i」と「AN-16/o」をA-Netエクステンションで接続し、32×32の音声伝送システムを作り、さらに音声アウトを分配したシステム例です。「AN-16/o」にはA-Net OUTも付いていますので、数台カスケード接続すれば、同じ16チャンネルの音声が取り出せます。また、「A-16D」を接続してA-Netを分配すれば更にシステム設計が確実になるでしょう。機器間のケーブルは150mまで延長できますので、ホールや建物の各フロアで利用する場合もケーブルの長さには困ることはないと思います。



ところで、皆様はYAMAHAのデジタルミキサーをお持ちでしょうか？ PA業界の方なら使用されている方は多いと思います。AVIOMの新製品「AVIOM16/o-Y1 ヤマハ・アウトプットカード」を利用すれば簡単にモニターシステムの構築ができます。

YAMAHA デジタルミキサーのI/Oスロットに装着し、Cat-5ケーブルで「A-16II」や「AN-16/o」に接続するだけ。「A-16D」や「A-16D Pro」も接続可能ですので、システム拡張は容易です。ミキサーからダイレクトに音声アウトが設定できますので、ますますシンプルになります。重いマルチケーブルで音声を引き回していたエンジニアの皆様、Cat-5ケーブル1本で16チャンネルの音声がミキサーからダイレクトに伝送できます！

様々なシステム展開が可能な AVIOM。価格帯がリーズナブルな点も好評を頂いております。ハイクオリティ・シンプル設定・リーズナブルと3拍子揃ったモニターシステム。ぜひ、お試し下さい。デモ機も用意しています。

User Report

劇団四季様の四季劇場「春」と「秋」に AVIOM モニターシステムを納品しました。春劇場はロングラン公演中の「ライオンキング」、秋劇場は「南十字星」の公演を行っています。春劇場では、「AVIOM16/o-Y1」を使用し、「A-16D Pro」3台を連結させ、計19台の「A-16II」を接続しました。指揮者とパーカッション奏者は「A-16R ラックマウントミキサー」も利用し、モニタースピーカーを鳴らしています。秋劇場は、「AN-16/i」を利用し、17人編成のオーケストラに AVIOM のシステムが使用されています。ミュージシャンの評判は・・・、「今までは、キューシステムの関係で、Mix音を送っていたが、16チャンネルという多チャンネルで好みのモニターバランスに出来るのが良い。操作も簡単。見た目で分かる！」と好評です。エンジニアからは、製品のクオリティ、0.88msec の Latency、システム構築の容易さが評価されています。すでに、プロドウェイやの全世界のミュージカル業界でも好評を得ている AVIOM モニターシステムですが、日本でもその活躍が期待されます。

モニターミキサーは YAMAHA PM5D。AVIOM Y1 ヤマハ・アウトプットカードを利用。(春劇場)



導入事例紹介

■ CRAZY TV 汐留ファクトリー 様

CRAZY TV 汐留ファクトリーがポストファシリティとして日本国内で最初の ICON システムを導入されました。

港区赤坂にある CRAZY TV の赤坂ファクトリーでは既に Avid 映像ワークステーションと ProControl を備えた Pro Tools システムが活用されており、今回汐留に新規サウンド対応 MA ルームをオープンされました。



汐留ファクトリーの ICON システムは 16 フェーダー仕様の D-Control、ProToolsHD 3 Accel、2台の 192 I/O、SYNC I/O、PRE、2 ユニットの Avid MediaDock Dual で構成されており、また Avid ビデオ・インターフェースとして FireWire 接続の AVoption V10 を選択。MA スタジオとして国内最初の Windows XP ベースのホスト CPU として HP Workstation wx8000 が採用された結果、拡張シャーシ無しのコンパクトなシステムが実現しています。ヘッドアンプに Digidesign の PRE を採用され HA のリモートコントロールと ICON に AUX フェーダーを設定する事でインプットフェーダーとしてゲインコントロールも活用されています。



■ スリーエスタジオ 様

スワラプロのスリーエスタジオに ICOM32 フェーダーシステムが導入されました。

スワラプロ様の ProTools は、今回でスタジオ内の 5 システムと選曲及び効果用の 11 システムを導入されており、毎週数本のアニメーションのほか、2 時間ドラマやバラエティ、さらには BS 番組等を手掛けられています。

メインスタジオは、サウンド対応で ICON を使った 48ch メインシステム ProTools と、サブ音効用の Comand 8 を使った ProTools があり、すべての部屋での編集素材を共有出来るシステムになっています。



■ HALF H・P STUDIO 新宿サテライト 様

アニメーション作品や外画の日本語吹き替え版を多く手掛ける HALF H・P STUDIO 様が 5.1ch 対応の新宿サテライトをオープンされました。このスタジオでは外画吹き替えのみを専門に行なう。30 名規模の収録を可能にした広さ 50 ㎡のスタジオスペースと SSL SL-9080J が目を引きます。

弊社では ProToolsHD Accel、ノンリニアビデオ DOREMI V-1m 等の導入とファイリングをさせていただきました。



■ 神南スタジオ 様

多くのアニメ作品を制作している神南スタジオ様が、既存のダビングスタジオをリニューアルしました。大きな変更点としては 1 台のアナログコンソールから 2 台の YAMAHA 02R96 デジタルコンソールにし、DAW も各々専用機としてメインミキサー、音効用を用意したという事でしょう。その DAW は 2 台のフェアライトと 2 台の ProToolsHD で場合により更に 1 台の AKAI DD8 まで用意するという徹底ぶり。今回弊社はそのシステム設計、施工、および ProToolsHD の導入をさせていただきました。同スタジオではフェアライトと ProTools が半々の割合で使用されておりフェアライトを使用する際は 02R96 はミキサーとして動作し、ProTools の場合は MIDI コントローラーとして使用する事ができる。また、SRC 拡張カードを実装したことで、異なったサンプルレートのデジタルミックスが可能となりました。



■ 仙台放送 様 仙台放送新局社 MA スタジオ移転工事

この度、弊社ではゼネラル通商様のもと仙台放送 MA スタジオの移転新設工事を行いました。工事内容は amsNEVE MMC コンソールの新規導入及び ams の DAW「AUDIO FILE」の移設が主な工事でした。工事中に仙台にプロ野球チームが拠点地になるかも、ライブOアカオカ、等と全国(仙台放送さまはCX系)向けにニュースを作成しており、移転しなければならぬ機材をギリギリまでニュース番組制作や特別番組等で使用しており、現地にて工事現場との調整したりと旬な時期に工事を行いました。



新製品紹介

ROYER 社



■ Royer Labs 社 SF-24  
 アクティブ・ステレオ・リボンマイクロフォン  
 オープンブライス (市場予想価格 ¥504,000 前後)

48Vファンタム・アクティブタイプのステレオ・リボンマイク。  
 2つのリボンエレメントをセンターから45°の角度で配置するX-Y方式 (Blumlein) のステレオマイクです。特注ローノイズFETを使用し、高いS/N比を実現しました。コンデンサーマイクと同じ使用感覚で他のマイクでは得ることの出来ないナチュラルで暖かなサウンドが味わえます。ピアノ・ブラス・弦楽器・アンサンブル等の収音に最適なモデルです。

【製品仕様】  
 指向性：双指向性  
 エレメント：1.8ミクロン・アルミニウムリボン  
 磁石：希土類ネオジウム  
 周波数特性 30 ~ 15kHz ± 3dB  
 感度：-38dB (1v/pa ± 1dB)  
 セルフノイズ：< 18dB  
 出力インピーダンス：200 Ω  
 出力コネクター：XLR5-pin オス (ステレオ)  
 ロードインピーダンス：> 1k Ω  
 最大入力音圧：130dB  
 電源：48V ファンタム電源  
 付属品：専用アルミケース・ショックマウント・専用マイクケーブル  
 寸法：径φ 25mm(top)39mm(base)/長さ 270mm  
 重さ：531g

Millennia Music & Media Systems

Millennia 社

■ Millennia 社 TD-R ラックマウントキット オープンブライス 市場予想価格 ¥29,400 (¥28,000 税抜)

Millennia 「TD-1」は、真空管回路とFETソリッドステート回路の切替が可能なダイレクトボックスで、ギターリスト・ベーシストなど多くのミュージシャンから好評を得ています。  
 「TD-1」は通常、2Uハーフラックサイズで持ち運びに便利なハンドルが付属されておりますが、この度、よりヘビーなスタジオワークに対応できるラックマウントキット「TD-R」を新発売いたします。



URS 社



■ URS 社 FullTec Program EQ 価格 ¥65,100 (¥62,000 税抜)  
 期待の新製品は個性溢れるビンテージとテクノロジーの融合！  
 往年の銘記 Pultec EQP-1A と MEQ-5 のオリジナル回路を忠実に再現しつつ両者を融合する事により、新たな5バンドEQプラグインとしてリリースしました。  
 期待に答える URS の新製品を是非体験下さい。

■ URS 社 Everything EQ Bundle TDM 4.0 価格 ¥294,000 (¥280,000 税抜)  
 URS の全ての製品をバンドルしたパッケージ製品がリニューアル！  
 Fulltec Program EQ に加えてベース、トレブルをコントロールするシンプルなBLT EQまでを含んだパッケージです。

※ 10日間使えるデモ版はこちらからダウンロード可能です。→ <http://www.ursplugins.com/demo.html>

SoundIdeas 社 著作権フリー効果音 NEW タイトル!

Basic Asia

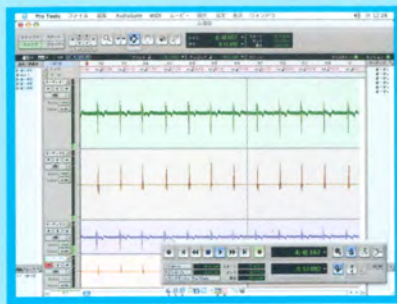


■ SoundIdeas 社 Basic Asia 5CD Audio/225SFX 価格 ¥89,250 (¥85,000 税抜)  
 Basic Asia は、ロケーションを東南アジアに絞り、アジア独特の寺院、自然、村、町、交通、群衆等の雰囲気、環境音を収録した効果音集です。  
 寺院ではお経を唱える音や厚くて重い木製扉のキーキーという開閉音、町では「tuk tuk」の通過/移動音、またアジアの人達の元気な笑い声、駅のプラットフォームでのインフォメーションと、様々な素材が含まれています。これまでなかったアジアに絞った効果音集です。是非御試ください。

- BAS-01: 屋外バックグラウンド音  
 住宅地 (バンパーハット/竹小屋: 日中、夕暮れ)、町 (ティーンエイジャーの声、足音、交通、バスのアイドリング)、田舎 (雌牛、バッファロー、コオロギ、犬、子供とティーンエイジャーのサッカー)、市場 (足音、声、早朝)、レストラン、初等学校 (校庭、子供達の声)、寺院 (ベル、鳥、雄鶏)
- BAS-02: 室内バックグラウンド音  
 カフェ、病院、郵便局、ショッピングモール (混雑、群衆、声、足音)、スーパーマーケット、学校 (教室、初等学校、高等学校、誰もいない教室)、レストラン、ルームトン (掃除機、ファン、木のキーキーという音、アパート、寺院)、工場 (織物工場、金属細工場)、寺院 (修道士、タイの賛歌)
- BAS-03: 人間 & 動物  
 群衆 (子供達の笑い、ベチャクチャしゃべる、叫び、クスクス、キャッキョウ、ムエタイ、称賛、リアクション)、人間 (女性の声と笑い声、犬を呼ぶ子供、鼻息、男性のスピーチ)、足音 (砂利、泥、木の階段、床、通路、集団でランニング)  
 動物: 犬、鳥 (カモ、グース、ニワトリ)、畜、バッファロー、コオロギ
- BAS-04: 交通  
 テクテクオートバイ (通り過ぎる、スタート、アイドリング、ストップ、乗車)、モーターボート、三輪車、ディーゼルのバス、列車 (ボラットフォーム、レール、ディーゼル、ブレーキ、乗客、橋)、スカイトレイン、2車輪の農場トラクター
- BAS-05: その他  
 バックグラウンド音 (都市交通、バス停、駅、スカイトレイン)、機械音、木から果物の落下、寺院の木製ドア (屋外、屋内、開閉、蜂番)、エレベーター (スタート、ストップ、ベル)、打撃音 (木、ナイフ、ジャングルナイフ、切る、裂く)、家庭での料理 (切る、たたく、鍋)

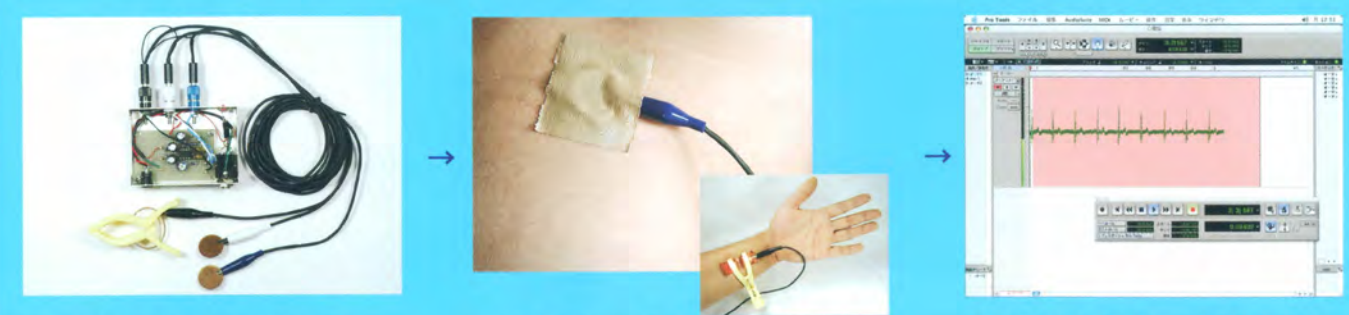
<第8弾> Dr.新田の事件簿シリーズ

スタジオで健康診断!? 「ProToolsで心電図をとるぞ」の巻



会社の健康診断を受けたDr.Nは、心電図の検査の波形を見て、ふと思いました。  
 「これってキックドラムの波形に似てるなあ。ひょっとしたらProToolsでも心電図がとれるのでは？」  
 そんな思いつきから今回の研究が始まりました。

心電図というのは心臓の筋肉が収縮したときに発生する微弱な電圧を皮膚につけた電極から取り出して増幅、記録したものです。簡単に考えればマイクケーブルの線を剥き出しにして肌に貼り付ければよさそうですが、そう簡単にはいきません。録音の世界ではエレキギターの音をライン録りするときにダイレクトボックスを用いますが、心電図の場合も同様にインピーダンスが高いためダイレクトボックスを用意して5MΩ以上といったハイ・インピーダンスで受ける必要があります。なお、発生する電圧は1mV程度とマイクレベル並に微弱です。そこでダイレクトボックスの後にマイクアンプを通すことでラインレベルまで増幅します。それとノイズ対策も重要です。フォンプラグやピンプラグの先端を触れたときに聞こえる「ブーン」というノイズは誰もが聞いたことあるはず。心電図測定では人体がもろに信号線に触れるため、激しくハムノイズを拾います。そこでダイレクトボックスの入力をバランス化。ホット側の電極を心臓周辺、コールド側は離れた場所に取り付けることでハムノイズを打ち消し、心臓から発生する電圧だけを取り出せるようにしました。



できるだけ感電しにくい設計にしたつもりで心電図用ダイレクトボックス。体に電極をつけた場合、低い電圧でも感電するので実験は命がけだ。

10円玉をミノ虫クリップで挟んだものをガムテープで肌に貼り付ける。アース線は洗濯バサミを使って腕にとりつけた。

ProToolsから心電図。不思議な光景だ…。でも、よくみるとノイズの影響でかなり波形が鈍っているのが分かる。もしかして、これってプラグイン使えば取れるんじゃないか…?



WAVESのRestorationバンドルを用意。X-Humでハムノイズ、X-Noiseでヒスノイズを取り除く。高域にキュルキュルというデジタルノイズが乗る副作用があるが、心電図にはDC~1kHzくらいの帯域があれば十分。高域は思い切ってEQでカットした。

ビートディテックティブで心拍数を測定。直訳のとおり、まさに「鼓動検出」だ。セッションを再生すると「テンポ」として心拍数がリアルタイムに表示されていく。

ようやく完成したキレイな波形の心電図。しかしこれだけエフェクトを掛けてしまっても正しい診断ができるのか? …そんなツッコミを考えてはいけない。

さて、このようにして得られた心電図ですが、ProToolsのデータなので当然、「音」として聴くことができます。スピーカーから聞こえてくる自分の鼓動の音は、なかなか迫力があって力強くイイ感じ。この音、ひょっとしたらテレビの効果音や音楽のキックドラムの音として利用できるかも!? Dr.Nの心臓の音に興味のある方は、ぜひお問い合わせください(笑)

タックシステムも皆様のご支援ご紹介の下、今年で10周年を迎えることが出来たことを感謝申し上げます。私、山本隆彦は約30年前ナニワ楽器(現カメオインタラクティブ)に入社し、ハイエンドコンピューター楽器の販売、マーケティングに従事してきました。

その折、フェアライトCM(コンピュータ・ミュージカル・インストゥルメンツ)と出会い東京事務所を設立、以来十数年間、様々なミュージシャン、作曲家のレコーディングスタジオ機器(PPG、シモンズ、カーツウェル、LIN、EMU等)を提供し、プロオーディオマーケットに身を捧げるきっかけとなったのです。

その後、スチューダージャパンにて放送局ポストプロマーケットのコンソール、DAWマーケットを構築するようになりましたが、メーカーと中立の立場で、「目的・用途・予算」に応じたシステムを提案するためには?.....とタックシステムを設立する意を固めました。

設立当初は、ひとり、自宅の畳1畳のスペースでコンサルティングを主体としたビジネス提案を行い、物販を行わず機材選択、システム構築などのコーディネートやノウハウビジネスでスタートいたしました。

弊社の周知目的と情報の提供という両面からこのTACインフォメーションを発行し始めたのもこの時期です。

(TACインフォメーションも、初版の150部から1500部へと成長し現在はVol.24になりました。)

実際にはノウハウビジネスをメインとしてスタートさせましたが大きな困難が立ちました。コンサルティングにお金を払う事は難しいという現実です。そこで機材全体を含めたシステムの提案プラス販売といったビジネスに転向したのです。

以来、毎年社員も1人ずつ増え、それに順当して売上も1億ずつ増加しましたが、その過程も簡単なものではありませんでした。スタジオ機器の進化は著しく、システム図面は書いてもすぐに仕様変更や新製品が発表されてしまい、新しくなる度に安く良い物が提供できるようになったのです。しかし、それは会社にとってみれば、採算をいかにあげるかという苦悩の始まりでもあります。そこで、DAWシステムのみならず、オリジナル商品(TACドライブ・ケーブル・VUメーター等)を製作し、海外製品の輸入販売などお客様の様々なニーズに提供できる他にない商品の紹介をするよう心がけてまいりました。今では、年間ProTools約200システム、NUENDO約30システムを納品し、均一なサービスを提供するには少々限界を感じておりますが、鋭意努力を続けていく所存です。

10年間、必死に走り続け自社ビル(借金)を持たせて戴くまでに成長できましたのも皆様のご支援、ご協力があってこそ感謝しております。今後は、需要創造とユーザー様のスキルアップを目標に各種セミナーや勉強会を弊社ショールームにて行っていく予定です。皆様のご要望にお応えしながら更なるステップアップを目指し、この10年を節目として次の方向性を模索していく所存です。

今後ともご支援ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



INFORMATION

■ Additional Studio Information !  
NHK801スタジオ様

この度、ドラマ番組制作スタジオとして11月1日にオープンされました。コンソールはSYSTEM5で弊社からProTools2式(AVオプションV10付き)とNUENDOを導入させていただきました。

ProToolsは、WindowsPCでAVIDとのファイル互換も考慮されています。フィジカルコントローラとしては、整音室には、プロコントロール、コントロールルーム側は、Comando 8で、音響デザイン様からのNUENDO素材にも対応し、SYSTEM5をNUENDOのバーチャルコントローラとして運用も可能です。スタジオ内にはFoley音(擬音、効果音)をとれる様々な床素材や、砂、砂利等を置くスペースも配備されています。



■ digidesign VENUE 登場!



DIGIDESIGN | VENUE

VENUEはdigidesignがリリースする全く新しいライブ・サウンド・システムです。最大96マイク入力を27バスヘミックス可能な上、全入力チャンネルでEQ及びDynamicsプロセッシングが提供されます。またPro Toolsを使用したレコーディング&プレイバック・オプションも用意されています。

業界注目のVENUEは、Inter BEE 2004 digidesignブースにて、いよいよ国内初登場となります。

■ 2004年国際放送機器展

Inter BEE 2004 国際放送機器展が例年通り幕張メッセにて開催されます。今年もプロオーディオ部門で新製品を多数加えた展示を行います。是非ご来場ください。

日時: 11月17日(水) 10:00~17:30  
11月18日(木) 10:00~17:30  
11月19日(金) 10:00~17:00

会場: 日本コンベンションセンター(幕張メッセ)  
弊社展示ブース: ホール3 #3304 プロオーディオ部門  
入場料: 無料(登録制)

みどころ:

- 初出展 SRSサークルサラウンド 5.1チャンネル化を目的とする、エンコーダー・デコーダー、プラグイン
- 初出展 URS Everything EQ Bundle
- 初出展 単なるビンテージ・シミュレートではなく、独創的なアイデアを盛り込んだエンジニアのためのプラグイン
- 初出展 Royer Labs SF-24 48V ファンタムパワー・アクティブシリーズのステレオリボンマイク
- 初出展 Mojave Audio バキュームチューブマイクとチューブマイク組み立てキット
- JL Cooper から新メディアコントローラ、AVIOMから新製品2種
- RorkeData、StorCase、TAC System オリジナルのネットワークやデータストレージ系の機器等を展示いたします。



・「あみだで決まった編集長」記念すべき10周年での発行はこうしてスタートしました。今回は全員のレポート掲載を目指してレイアウトを行った結果、かなり中身の濃い内容になったと思いますが如何でしょうか。全員疲労困憊に陥りながら制作した今回、みなさん是非もう一度巻頭からご覧下さい(以後無限ループ...) Satoshi  
・タックインフォメーション、レイアウト担当 shimegi です。今回は12ページというボリュームなので、記事は免除させて頂きました。が、やはり12ページ。またまた徹夜?しかし徹夜もそろそろきつい。ヤ/い/です。そんなお年頃? shimegi